

次世代に贈る言葉

広島県立広島第一中学校

昭和17年卒業

壬 午 会

あゝ 真理よ
あなたは 我が心の 中に在る
その啓示に従って 我は進む

1952年11月5日

ラダビノード、パール

この碑の所在地 中区小町7-24 本照寺(日蓮宗)

老いの戯言(ざれごと)か

小林 哲郎

☎730-0804 広島市中区広瀬町 6-14

まさに「世紀末か」と慨嘆させるような今日の世相である。殊に巷間に溢れる異様な風体、行動の若者たちを見ていると、つい「近頃の若者は」と口走りたくなる。むろん多くの若者たちが勉学に励み、真摯に社会奉仕に汗を流し、われわれ古い世代には想像も出来なかった国際的な活動を、堂々と果たしている頼もしい姿をみれば、賛辞を贈るのにやぶさかではない。

しかし、昨今多発する異様な事件、犯罪や学校現場の混乱をみていると、やはり戦後50年の教育の基本理念に誤り、欠陥があったのではないかと疑念を持たざるをえない。

敗戦後、いわゆる進歩的文化人と称する人達の価値観の多様化という甘言に便乗して、基本的道徳、倫理観の基準すらも曖昧にしてきはしなかったか。

先日テレビ討論で、中学生の一人が「どうして人が人を殺してはいけないのか」という質問に対して、出席していた有識者といわれる人達の誰一人として明確な答えができなかったのに唖然とした。中学生が「セックスして何故悪いの」というのに対しても然りである

これはかつての一時代、「道徳」というものは嘲笑するもの、反発するものと教えられ、善悪の基本基準さえも曖昧に教えられてきた親や教師たちの狼狽と自信喪失の姿ではないかとみた。

修身教育をバックボーンに、べからずだらけの禁欲教育によって鍛えられた旧人類の独断、偏見、頑迷と言われようと、日本の未来の為に、思うこと信ずることを もっと発言しようではないか。

私の好きな言葉の一つに「子供の時に良き節度を学び、青年時代には感情をコントロールすることを学び、そして悔いなく死ぬ」というのがある。昔のNHK市民大学テキストに載っていた言葉だったと記憶している。

また、高齢者問題世界会議報告書の序章の第23条に、「人類は長い児童期と、長い老年期を特徴とする。このことが歴史を通じて、年長者が若年者を教育し、価値を伝達することを可能にしてきた。そしてこの役割が、人類の生存と進歩をもたらした」とある。

ともにヒトのヒトたる所以を的確に定義した名言であり、教育の原点であり、子供たちにも、親にも、教師にも座右に置いて欲しい処世訓と思う。

激動激変の時代を、嘗々と国のため、社会のため、家族のために生きぬいてきた我々の人生経験を、少しでも後世の為に役立たせればと思う。わが人生も残り少なくなった。老人福祉法第3条には、「老人は常に心身の健康を保持し、その知識と経験を社会に役立たせるよう努めなければならない」とある。

諸兄のいっそうのご健康を祈りつつ、本文集への寄稿の責を果たしたい。

佑 樹 君 へ

斎藤 显頁

〒165-0024 東京都中野区松が丘 1-30-1-906

中学校の友人で、孫に言っておきたいことの文集を作ることになりました。僕達の世代は戦争の呪縛から脱れきれないでいる集団ですから、どうしてもそこから語り始めることになります。

1931年、小学校1年生の時に満州事変が勃発しました。1941年、太平洋戦争に突入し、原爆投下で終るまで実に14年間も戦争が続いたのですから、国民の苦労は並大抵ではありませんでした。終戦の時には大学生になっていました。思想も学問も自由を奪われ、学友も戦場に送り、軍国主義だけが跋扈する殺伐とした苦難の時代でした。

終戦の日の日記より

8月15日 水 晴

正午、玉音放送を拝す。学内の異常な静寂の中を抑揚のない声が出る。とめどもなく流れる涙。ああ、ついに戦争は終わった。そして生き残った。

やがて東京裁判が始まり、日本は軍国主義的侵略者ときめつけられました。とても承服する気持ちにはなれませんでした。太平洋戦争にはもう一つ別の側面があったと思っています。緒戦有利に戦いをすすめた日本は占領した欧米の植民地を総て解放しました。これはやがて戦後のアジア民族独立につながってゆくので